

常任委員会事務調査報告

総務企画・産業建設常任委員会合同調査

総務企画常任委員会

委員長 小林 盛

今年度、総務企画常任委員会及び産業建設常任委員会では、合同で所管事務調査を行いました。11月15日・16日の2日間の日程で、那須塩原市では那須野ヶ原土地改良区連合で行っている小規模水力発電及び栃木県畜産酪農研究センターで行うメタンガスを燃料として発電するバイオガスプラント、福島県磐梯町では小規模下水道事業、コミュニティプラントの取り組みについて調査を実施しました。

小規模水力発電は、農業用水を利用したひき沼第1発電所を視察。この発電所は、最大出力が360KWあり、売電金額は年間4000万円ということでした。

次に、バイオガスプラントは、牛の糞、し尿及び食品廃棄物を利用してメタン

ガスを発生させ、それを燃料としてガスエンジンにより発電するものです。

現在は実験段階ということですが、施設の建設費が1億8000万円かかっており、採算ベースに乗せることは困難と感じました。



バイオガスプラント視察
(栃木県畜産酪農研究センター)

磐梯町の七ツ森地区は民間企業がリゾート開発を行った別荘などの分譲地であり、ここに設置されたコミュニティプラントは、現在、磐梯町が企業から寄付を受け管理しています。

計画人口の設定が2000人となっており接続世帯が62世帯で、接続人口が109人と少ない状況でした。

教育民生常任委員会

委員長 橋本 操

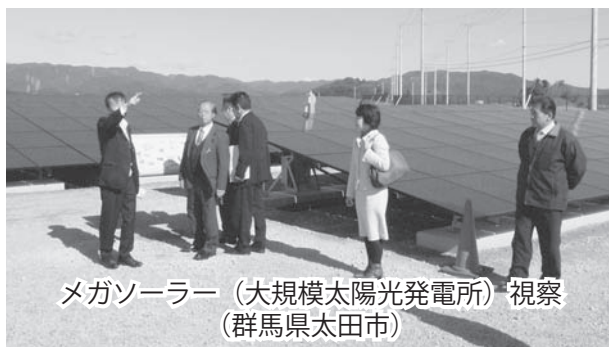
教育民生常任委員会では、11月8日・9日に群馬県、新潟県、福島県において所管事務調査を実施しました。

群馬県太田市では、青色LED防犯灯(エスコ)事業及びおたメガソーラー事業を調査しました。エスコ事業は、光熱水費等を分析し、改善に向けた設備投資から保守費用を事業者が負担し経常経費を削減するもので、これにより実現した経費削減実績から一定額の対価を事業者が受け取り5年から20年の長期間をかけて投資を回収するというものです。

太田市では、従来電気代や修理代で年間7600万円かかっていたものが、この事業により年間7000万円に削減できるということでした。

おたメガソーラー事業は、県が開発し売れ残った工業団地を市が買い取りプロポーザルにより選定した業者がメガソーラー施設を

設置し、これを15年間のリース契約で市が借り受け売電した収入をリース料の原資にするという形で行われております。



メガソーラー (大規模太陽光発電所) 視察
(群馬県太田市)

また、新潟県企業局が阿賀野市の東部産業団地内に設置した大規模太陽光発電所も視察しましたが、ソーラー発電には広大な用地が必要であり、土地の利用価値を勘案した用地選定が大切であると感じたところです。

福島県では、やないづ町立斎藤清美術館を視察いたしました。

宮城県大河原町議会が視察に

12月18日、宮城県大河原町議会が、イノシシ対策と食肉利用及び放射能対策について、視察に訪れました。

大河原町では、現在、イノシシによる野菜などへの被害が発生し、その対策に苦慮している状況です。対策の一つとして食肉への利用を図った場合、放射能問題にどのように対応するか。検査体制等を研究中とのことでした。



大河原町議会議員の視察